

「^{みんな}きらり男女のコーナー」 ～目指せ！男女共同参画社会～

このコーナーは、鹿児島県男女共同参画地域推進員として県から委嘱を受けられた曾於市の3名の推進員さんが、市内で活躍する方にインタビューに行くコーナーです。男女共同参画の視点から、さまざまなお話を伺います。



近藤 伸子 さん

第1回のお相手は、鹿児島県立財部高校の校長先生である近藤^{のぶこ}伸子さんです。

近藤さんは、県立高校の教諭になって今年が34年目です。以前にも9年間財部高校で勤務していました。その9年間ではPTAや地域の方に大変お世話になったそうです。校長になって最初の勤務先が再び財部高校ということで、「ふるさとに帰って来た感じです。以前お世話になった地域の方とのつながりのおかげで、今、大変よくしていただいています。」とおっしゃっていました。

①今の立場（校長）になって感じたこと

自分の姿や生き様で、人がついて来るか来ないかが決まると思っています。校長職は人間修養の場ですね。ですが、日々いろいろなことがあり楽しくやっています。特に困ったことはありません。

②他の女性に伝えたいこと

女性の特性を自分の働く場所で活かして欲しいです。子育てをしながらでも第一線で働けるように、職場や地域づくりも大事ですね。

③家族の協力体制はどうでしたか

子育ての大変な時期に夫や家族の理解や協力がありました。それと同時に地域の保育園が多大な援助をしてくれました。私は支えられて仕事ができるのだと感じました。

④地域の人々の反応は

財部地区の皆さんは、学校に対する関心が深いと感じています。体育祭や学校訪問にも多くの方が財部高校に来てくださいました。ありがとうございました。

⑤地域活動への取り組みについて

地元開催の行事には、財部高校として何でも参加します。どろんこ大会や市民祭、駅前イベント、子どもフェスタ、がねコンテストにも参加しました。生徒も教員も一体となって取り組んでいます。曾於市を盛り上げるために、地元高校として、今後も前向きに取り組んでいきたいです。

さらに、教育者として子どもたちを取り巻く現状についても話されました。

「子どもたちには、社会に迷惑にならない大人を送り出すために『きびしさ』を教えなければならない。親は、自分自身に自信がなく不安を抱えているため、子どもに強い態度を取らないし、食を大切にしていない。コンビニの食事ですらまともに育つはずがない。」と。そして「今、私たちにできることは、逃げずに子どもと深く関わること。子どもたちには高校時代にしかできないことを体験してもらい、それぞれが活躍して輝く体験を通して、自信をもって社会に出てもらいたい。」と、話されました。

次回は、どんな方にインタビューに行くかお楽しみに。



お問い合わせ先

企画課男女共同参画係 ☎ 0986-76-8802